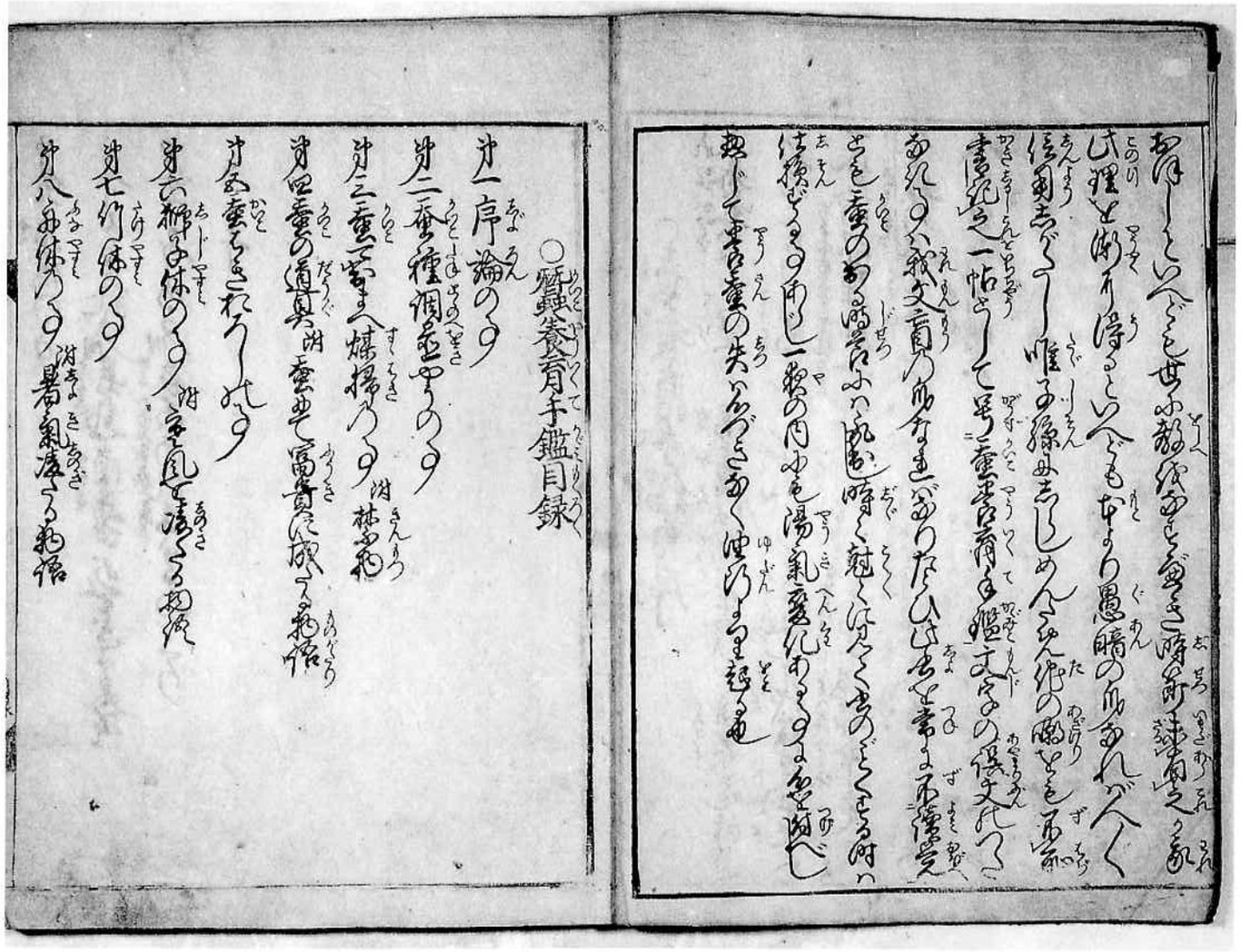

○蚕養育手鑑目序

夫蚕養の小業たるや佛菩薩の初発心の時なりと雖ども
ゆゑなきにあらず先代舊聞曰神武天皇
十八年冬十月五瀬命兄稲飯命を熊野神に
養蚕の術を教給ふ【日本紀】
人皇三代用明天皇の皇子聖徳太子の蚕を飼給ふ【日本紀】
開くに專ら賢きかことくなし【武経総要】
蚕氏績ともあり【北堂書鈔】

ありしといへども世の教なきこと時の所為なり
しかりといへどもなほ愚暗のものあれば
信用ありて書記を一帖こしらへ置ぬ
あれども我文盲の如きまでありなれば
さを蚕のあるごとくなる時
捨置るるの用心一巻の目次を湯気変化するまで
おしへて書置の失なきやう述るまでに

○蚕養育手鑑目録

巻一序論の事
巻二蚕種撰並びに
巻三蚕室構様の事
巻四蚕の道具并に蚕室へ取入る事
巻五蚕こをれうじ
巻六蚕こを取る時の事
巻七飼様の事
巻八桑様の事　附暑気凌ぐ事

第九　産休の事
第十　上田まゆの事
第十一　まゆの事

○第一　序論

（後略）